

## 施策分類 2

# 住民の暮らしを支える施策

- 2-1 災害に強いまちづくりと防災コミュニティの形成
- 2-2 安全・安心に暮らせるまちづくりの確立
- 2-3 住民の生活を支える公共交通の維持
- 2-4 快適な生活を支える都市基盤の整備
- 2-5 環境負荷の少ない暮らしの推進
- 2-6 健康で安心して住み続けられる保健医療体制の充実
- 2-7 地域で支え合い、安心して暮らすための福祉施策の充実
- 2-8 多様性を重んじるコミュニティの形成
- 2-9 住民の生きがいづくりとなる生涯学習・文化活動の推進

第 6 次総合計画 の位置づけ	施策分類		施策名			
	2	住民の暮らしを支える施策	2-1	災害に強いまちづくりと防災コミュニティの形成		
施策の展開方向	①災害に強いまちづくりと地域の防災体制づくりの推進					
想定される取組 その他の取組	◇自主防災組織への支援 ◆防災アプリ等による啓発と利用促進 ◆様々なツールを活用した防災情報の共有と災害時要援護者への支援 ◇災害時の拠点となる役場新庁舎の建設に向けた基本計画づくり ◇防災訓練等の実施 ◇防災土資格の取得推進 ◆防災備蓄の整備		担当課			
			総務防災課			
取組状況	防災備蓄の整備等を行うとともに、広報誌やホームページ・SNS 等を活用し、住民への防災体制づくりを推進している。 自主防災活動を支援するため、補助金を交付する等自主防災組織づくりの強化を図っている。 また、出前講座や自主防災組織への研修及び防災訓練を実施するとともに町内事業者との防災協定を働きかけた。					
課題（問題点）	自主防災組織の結成率については 3 月末時点で 89.3% であるが、結成が進んでいないところに関しては引き続き結成するよう働きかけていく必要がある。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 防災備蓄の更新・整備を行ったほか、出前講座や防災訓練等の実施により、地域の防災意識の向上につながっている。				
今後の方向性	<u>拡充</u>	(具体的な内容) 引き続き地域と連携しながら、出前講座や防災訓練を通じて防災意識の維持・向上に努め、自助や共助を推進していく。 防災拠点となる役場新庁舎の建設に向け、取り組んでいく。				

施策の展開方向	②消防力の強化	
想定される取組 その他の取組	◇消防組織の体制強化 ◇消火栓の補修・管理	担当課 総務防災課
取組状況	<p>町消防団や広域消防と連携し、消防組織の協力体制強化を図っている。            広域消防と連携しながら、消火栓の補修等を行い、管理を徹底している。            無人航空機を活用した消防団情報収集部隊（H. F. D. C）を結成し、ドローンを活用して災害の現地調査の情報収集を行っている。</p>	
課題（問題点）	消防団員の高齢化等により、消防団員が減っていることから、地域の消防団員確保をさらに努める必要がある。	
施策の評価	概ね順調	<p>（左記評価の理由）            消防団員は、定員割れが続いているが、少数精銳ではあるが、日々の訓練や消防活動、ドローンを活用した災害状況の確認を行う等、消防力の強化に図っているため。</p>
今後の方向性	継続	<p>（具体的な内容）            引き続き消防組織体制の充実に向け地域へ呼びかけていく。</p>

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名	
	2	住民の暮らしを支える施策	2-2	安全・安心に暮らせるまちづくりの確立

施策の展開方向	① 交通安全の確保
---------	-----------

想定される取組 その他の取組	◇交通安全教室の開催	担当課
		住民生活課

取組状況	町内各小学校・こども園の児童・生徒を対象に警察及び交通安全協会と合同で交通安全教室を年6回開催した。 また、春・秋の交通安全運動期間中には、PTA や高齢者を対象とした教室も開催し、幅広い世代に向け正しい交通マナーの普及・推進、交通事故防止の徹底を図っている。	
------	---	--

課題（問題点）	交通事故発生件数は令和5年度の 28 件に比べ令和 6 年度は 26 件と 2 件減っているが、継続して減らしていくよう取り組みが必要である。	
---------	---	--

施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 警察や交通安全協会と連携が取れており、順調に事業を展開できているため。
-------	------	--

今後の方向性	継続	(具体的な内容) 警察や交通安全協会との連携体制を強化しつつ引き続き事業を継続していく。
--------	----	---

想定される取組 その他の取組	◇道路交通環境の整備	担当課
		都市建設課

取組状況	自治会要望も含め住民の安全な通行確保のため、カーブミラーを 8 基、区画線を 320m、転落防止柵を 32m 設置した。 また、通学路合同点検の結果に基づく、区画線・路面標示等を表示し、児童生徒の安全確保に努めた。	
------	--	--

課題（問題点）	引き続き交通環境の整備と安全性の向上を図る必要がある。	
---------	-----------------------------	--

施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 必要性と効果を検証の上、カーブミラーや道路照明等の交通安全施設を設置できているため。
-------	------	---

今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き交通安全施設の新規設置や老朽化した施設の更新も含め、道路パトロール時にも点検を行い、交通の安全な通行環境に努める。 また、通学路においても、児童生徒の安全対策のための対応に努める。
--------	----	---

想定される取組 その他の取組	◇高齢者の免許証返納の啓発	
	担当課 総務防災課	
取組状況	警察と連携し、高齢者の免許証自主返納者への支援として、他の公共交通の乗車券の支援を行うとともに、コマバスやデマンド型乗合タクシー等の公共交通を運行し、移動支援を行っている。	
課題（問題点）	特になし	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) ホームページ等を通じて、十分に啓発活動ができているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き、啓発活動に取り組む。

施策の展開方向	② 防犯力の向上	
想定される取組 その他の取組	◇地域団体への支援 ◆防犯灯や防犯カメラの適正な設置・管理	担当課 住民生活課
取組状況	<p>防犯灯については、自治会等の要望に対し順次設置や修理を行っている。            防犯カメラの適正な設置については、西和警察署からのカメラ設置要望箇所及び通学路安全会議等からも出る重点箇所等も踏まえ、町内 4 か所の設置を行った。</p>	
課題（問題点）	既存設置の数台の防犯カメラは、耐用年数から見て、修理・故障、交換等の時期が来ており、メンテナンスによる費用の増加が懸念される。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 防犯灯については、概ね順調に設置が進んでいる。防犯カメラ設置についても、設置補助を活用しやすいよう要綱の見直しや既存の保守管理やメンテナンスを優先的に対応しつつ設置を進めているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 県の設置補助金等も活用しながら、カメラの設置箇所の拡充を行う。 また、故障等の対策やリース契約等についても検討する。

施策の展開方向	③ 消費生活の保護	
想定される取組 その他の取組	◇消費生活出前講座の開催 ◇近隣市町と連携した相談窓口の運用継続 ◇消費者トラブル対応への支援	担当課 観光産業課
取組状況	<p>消費生活出前講座（1回）の開催やfacebookやLINEを活用した特殊詐欺被害防止等の啓発を行い、生駒郡消費者サポートネットワークの運用を継続して実施した。</p> <p>令和6年度も継続して特殊詐欺対策電話機購入助成を実施した。</p>	
課題（問題点）	啓発活動は実施しているが、依然として詐欺による被害は発生しているため、新たな詐欺手口等の最新の情報をタイムリーに発信していく必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 特殊詐欺対策電話機購入助成金を37件交付し、消費者相談43件に対応できたため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 消費生活出前講座を幅広い世代に開催できるよう関係機関と連携する。 また、SNSの活用や各種団体を通じての発信など、リアルタイムでの情報提供に努める。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名
	2	住民の暮らしを支える施策	
施策の展開方向	① 公共交通機関の確保と充実		
想定される取組 その他の取組	<p>◆各交通事業者との連携強化（利便性向上への要望等）        ◇コミュニティバスの住民ニーズの把握        ◆公共交通分野のデジタル化</p>		担当課 総務防災課
取組状況	<p>交通事業者と連携し、公共交通の維持を行っている。        地域公共交通会議を年4回開催し、関係機関と課題を共有し、改善に向けて協議を行った。        NCバスやコミュニティバスの利用者アンケートや関係地域との意見交換会を実施した</p>		
課題（問題点）	<p>コミュニティバスの利用者の固定化が見られる。        町内各駅の乗降者数がコロナ禍以前より減っている。</p>		
施策の評価	やや遅延	<p>（左記評価の理由）        地域公共交通会議にて課題の共有・協議を実施しているが、コミュニティバスの利用者はピークと比較すると減少しており、町内各駅の乗降者数も減少しているため。</p>	
今後の方向性	継続	<p>（具体的な内容）        引き続き、地域住民のニーズや課題の整理に努め、コミュニティバスの利用促進に努める。</p>	

施策の展開方向	② 移動困難者対策の推進	
想定される取組 その他の取組	◆移動困難者の実態把握 ◆デマンド型乗合タクシーの試験運行の推進及び本格運行の検討	担当課 総務防災課
取組状況	高齢者における移動困難者の利便性を図るため、近大病院への乗り入れ、利用時間の拡大や車両台数の増車等の改善を行った。	
課題（問題点）	デマンド型乗合タクシーについて、家族間での利用が大部分となっている状況であり、密閉された空間で知らない人と一緒に乗車することに抵抗はある等といった理由から乗合率が増えていない。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 利便性向上により利用者が増えているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) デマンド型乗合タクシーの利用促進に向け、引き続き周知をしていく。

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名	
	2	住民の暮らしを支える施策	2-4	快適な生活を支える都市基盤の整備

施策の展開方向	① 計画的な土地利用と市街地整備の推進
---------	---------------------

想定される取組 その他の取組	◇計画的な土地利用の誘導の推進 ◇平群町駅前広場等のにぎわい創出 ◆インフラに係る手続きの効率化・3次元データの活用	担当課
		都市建設課

取組状況	計画的な土地利用の誘導のため、国道168号バイパス沿道のにぎわい拠点にドラッグストアやホームセンター等の商業施設を立地誘導した。 平群駅前広場等のにぎわい創出のため、商工会の協力のもと駅前広場のイルミネーションを実施した。
------	--

課題（問題点）	接道、土地の形状による困難性により現状土地利用が図れていない。 また、平群駅前広場の更なるにぎわい創出事業の考案が必要である。
---------	--

施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) イルミネーションにより、平群駅前広場を華やかに演出したことで、地域のにぎわい創出に努めたため。
-------	------	--

今後の方向性	継続	(具体的な内容) 今後開発等が行われる際には、周辺環境に配慮した土地利用となるよう指導に努める。また、引き続き、商工会と連携を図り、更なる平群駅前広場のにぎわい創出に努める。
--------	----	--

想定される取組 その他の取組	◇地籍調査の再開促進	担当課
		観光産業課

取組状況	令和元年度から令和5年度まで地籍調査は一時休止していたが、令和6年度に再開し、白石畠地区の現地調査及び測量業務を行った。
------	--

課題（問題点）	地籍調査の実施に向けた安定的な財源の確保が課題である。
---------	-----------------------------

施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 調査再開し、白石畠地区にて調査を実施したため。
今後の方針	拡充	(具体的な内容) 令和7年度も引き続き、白石畠・平等寺地区にて地籍調査を行っていく。

施策の展開方向	② 幹線道路及び生活道路の整備・管理	
想定される取組 その他の取組	◇道路橋及びトンネルの計画的な点検・維持補修 ◇生活道路の適切な整備と改良、環境保全 ◆道路台帳等のデジタル化 ◇計画的なバリアフリー化の推進	
取組状況	「平群町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき橋梁点検・補修を実施した。 また、生活道路の環境保全のため、月2回の道路パトロールを中心に補修・改善箇所の早期発見、早期対応に努めた。 計画的なバリアフリー化の推進のため、幹線道路の歩道バリアフリー化工事を実施した。	
課題（問題点）	幹線道路の改良拡幅に伴う用地の確保と、老朽化が進む道路施設の計画的な修繕や更新等を進める必要がある。	
施策の評価	やや遅延	(左記評価の理由) 国庫補助金の削減により、内容の見直しや規模の縮小等、必要最小限での業務の実施となつたため。
今後の方針	拡充	(具体的な内容) 限られた財源の中であるが、工事の優先度を定め、効率的な幹線道路及び生活道路の整備・管理を進めていく。

施策の展開方向 ③ 竜田川の魅力づくりの推進		
想定される取組 その他の取組	◇竜田川クリーンキャンペーンの実施 ◇竜田川まほろば遊歩道推進の会との協働による竜田川の魅力づくり	担当課 都市建設課
取組状況	こいのぼりの掲揚や桜のライトアップを実施した。 まほろば遊歩道にプランターの設置(町内 60 基)、まほろば遊歩道清掃活動(まぐわ淵一斉清掃・整備 2 回)に取り組んだ。	
課題 (問題点)	「竜田川まほろば遊歩道推進の会」の会員の高齢化に伴い、体力的に活動のできる人材が不足している。	
施策の評価	<u>概ね順調</u>	(左記評価の理由) 「竜田川まほろば遊歩道推進の会」の会の年間活動計画に基づき、活動を実施できた。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 桜のライトアップやこいのぼりの掲揚を平群の風物詩として定着させていく。 「竜田川まほろば遊歩道推進の会」の新規会員の勧誘と、竜田川の更なる魅力づくりに向け活動を行っていく。 また、竜田川沿いの豊かな自然を次世代に継承していくための桜の植樹活動を行っていく。
想定される取組 その他の取組	◇竜田川クリーンキャンペーンの実施 ◇竜田川まほろば遊歩道推進の会との協働による竜田川の魅力づくり ◇廃食用油の回収	担当課 住民生活課
取組状況	大和川一斉清掃に合わせ、例年通り 3 月の第一日曜日にクリーンアップ作戦として竜田川沿いの清掃活動を実施し、約 100 名の参加があった。 水質汚濁防止の観点から廃食用油の回収を行い、石鹼や売却等利活用に取り組んでいる。	
課題 (問題点)	クリーンアップ作戦の参加者が固定化されてきているため、参加者の拡大を図っていく必要がある。 また、廃食用油の回収量の拡大を図る必要がある。	

施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) クリーンアップ作戦の参加者は毎回 100 人程度の参加があり、参加者へアンケートの実施をし、フィードバックしていることから竜田川の環境美化への意識向上につながっているため。
今後の方針	継続	(具体的な内容) 引き続き、クリーンアップ作戦を実施し、竜田川の魅力づくりに取り組む。

施策の展開方向	④ 公園・緑地の適正な維持管理と活用	
想定される取組 その他の取組	◇公園の防災機能の強化 ◇公園設備等の計画的な改修	担当課 都市建設課
取組状況	<p>適宜、巡回点検を行うとともに、遊具の保守点検結果に基づき、公園遊具等の施設の適切な修繕や改修等の維持管理を行った。</p> <p>また、吉新 1 号公園に遊具を複数設置した。</p> <p>“山のぼっけ”花いっぱいサポータークラブ等のボランティア団体と連携して駅前の整備等の環境美化に努めた。</p>	
課題（問題点）	<p>遊具や公園施設全体の老朽化が進み、修繕・更新費用が増大している。</p> <p>また、害虫（クビアカツヤカミキリ）による樹木への被害が増えている。</p>	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 公園遊具・施設について予算の範囲内で、優先順位をつけて改修できているため。
今後の方針	継続	(具体的な内容) 今後も安全・安心に利用できる公園づくりを目指し、優先順位をつけて維持管理に努める。また、樹木の害虫対策については住民生活課と連携して実施していく。

施策の展開方向 ⑥ 下水道の整備及び汚水処理人口普及率の向上		
想定される取組 その他の取組	◇下水道整備の推進 ◇「平群町流域関連公共下水道事業計画」の改定 ◇公共下水道整備の支援継続 ◇下水道使用料の改定	担当課 都市建設課
取組状況	<p>下水道整備については、集中浄化槽地域から、公共下水道への編入を進めている。また、接続率の向上のため宅内配管工事の支援として、利子補給制度の継続を行っている。</p> <p>「平群町流域関連公共下水道事業計画」（計画期間：令和7年度から令和13年度）の変更を行った。</p>	
課題（問題点）	公共下水道事業の運営について、これまでの事業の効果を踏まえ、改めて将来の下水道事業のあり方について検証する必要がある。	
施策の評価	やや遅延	<p>（左記評価の理由）</p> <p>下水道整備を順次行い、下水道供用開始区域を拡大してきたが、財政状況が非常に厳しく、事業計画どおりに進んでいない。</p>
今後の方向性	継続	<p>（具体的な内容）</p> <p>将来の下水道事業のあり方についての検証と、各関係機関等の意見を踏まえ、慎重に検討する。</p>

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名	
	2	住民の暮らしを支える施策	2-5	環境負荷の少ない暮らしの推進
施策の展開方向	① ごみ減量対策の推進			
想定される取組 その他の取組	◇5R の推進 ◆ごみの減量とリサイクルの推進 ◇ごみ散乱防止ネットの配布 ◇リサイクルステーションの充実強化 ◇生ごみ処理機等設置費用の補助及び生ごみ堆肥化の推進 ◇ごみ焼却灰の搬出と剪定枝堆肥化の実施			担当課
				住民生活課
取組状況	「ごみ減量フェスタ」を開催した。 5R の推進としては、陶磁器回収を町内リサイクルステーション（3 カ所）で実施しており、使用済小型家電回収についても宅配便回収を実施している。 樹木の剪定枝をチップ化するための粉碎機の貸出しについて広報紙等で周知した結果、申請は8件あった。 また、オータムフェスタで「もったいない市」の開催や町内キエ一口モニターを募集するとともにキエ一口の個人申請に加えグループ単位などで追加募集し、ごみ減量化を推進した。			
課題（問題点）	エコ連絡会と協働で実施している、各種イベントの参加メンバーの高齢化及び新たな人選が難航している。			
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) ごみ減量化対策については、キエ一口モニターをはじめ、リサイクルステーション設置の拡充、小型家電や陶磁器回収等の官民協働による新たな回収方法及び拠点の拡充を行っているため。		
今後の方向性	拡充	(具体的な内容) 広報紙・各種イベント等の場で、更なるごみ減量化・分別・リサイクル関連の情報発信を行っていく。また、キエ一口について自治会へアンケート調査を実施しキエ一口の推進に向けて取り組む。		

施策の展開方向		
② し尿・汚泥の処理対策の安定化		
想定される取組 その他の取組	◇他の自治体との連携強化	担当課 <u>住民生活課</u>
取組状況	平成 14 年（5 年間の経過措置で平成 19 年）から、し尿・汚泥の海洋投棄禁止を受け、平成 19 年から兵庫県養父市処分場へ、平成 28 年からは生駒市の広域処理施設の稼働により、一部搬入を開始し、令和 4 年度からほぼ全量を生駒市にて処理している。	
課題（問題点）	物価高騰による処理費用の増大、処理先を一ヵ所とすることによる災害等の緊急時のリスク等が課題となっている。	
施策の評価	概ね順調	（左記評価の理由） 生駒市等と連携して、し尿・汚泥処理に取り組めているため。
今後の方向性	継続	（具体的な内容） 今後も生駒市等と連携強化を図り、安定的に事業を実施していく。 災害等の緊急時のリスク対策について検討していく。
想定される取組 その他の取組	◇合併浄化槽設置補助金の普及促進	
取組状況	国庫補助金、県補助金を活用しながら、合併処理浄化槽の普及促進を図っている。 また、令和 4 年度から費用対効果を考え、新築（建て替え等を除く）に設置する合併処理浄化槽は補助対象外とし、既存の単独浄化槽及び汲み取り便槽からの転換に係る合併処理浄化槽のみ補助対象とした。	

課題（問題点）	下水道の認可区域に設置する合併浄化槽について、おおむね7年間の下水道の供用が見込めない場合、国庫補助は対象となるが県補助金は対象外となるため、町の負担が増える。	
施策の評価	やや遅延	<p>(左記評価の理由)</p> <p>国の基準以外に町独自に補助金の上乗せをして、合併処理浄化槽への転換を図っているが、転換が遅れているため。</p>
今後の方針	拡充	<p>(具体的な内容)</p> <p>県補助を活用できるように、合併処理浄化槽での整備区域を慎重に検討し、合併処理浄化槽の普及促進を図っていく。</p>

施策の展開方向	③ 斎場の適切な運営		
想定される取組 その他の取組	◇斎場（火葬場）の利用者ニーズに合った運営	担当課  住民生活課	
取組状況	施設機能の適切な管理及び安定的な運営に努めており、指定管理者により施設の管理運営を行っている。		
課題（問題点）	斎場施設の経年劣化や老朽化等に伴う機能の維持管理コストの増大が見込まれる。		
施策の評価	やや遅延	<p>(左記評価の理由)</p> <p>指定管理を行い、安定的な運営に努めているが、施設の老朽化に対する対応が遅れているため。</p>	
今後の方針	継続	<p>(具体的な内容)</p> <p>計画的に施設の改修を行い、安定的な管理運営を継続していく。</p> <p>新たに、動物墓地の整備を進めていく。</p>	

施策の展開方向 ④ 持続可能な地域社会づくりの推進		
想定される取組 その他の取組	◇省エネ・省CO2の推進 ◇食品ロス問題に対する啓発 ◇フードドライブの実施 ◆脱炭素・エネルギーの地産地消 ◆電気自動車充電ステーションの整備の検討 ◇「平群町食品ロス削減推進計画」の推進 ◇町内8ヶ所で小型家電の回収ボックスの設置 ◇再生可能エネルギー等に対する国や県の施策について周知・啓発 他	担当課 住民生活課
取組状況	<p>平群町の食品ロス問題に対する取り組みを奈良県食品ロスのポータルサイトで発信し、啓発活動を行った。</p> <p>また、フードドライブの取り組みを広報紙等で周知し住民生活課と平群町社会福祉協議会窓口で随時実施している。（強化月間を年4回設定）</p>	
課題（問題点）	食品ロスの啓発については、町民や町内事業者等、食品ロス削減に繋げるための意識強化を図る必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 関係各課・平群町社会福祉協議会と連携を図り、周知・啓発を行っている。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き、関係各課・平群町社会福祉協議会と連携を図っていくとともに、町内の各種イベントの場や奈良県食品ロスのポータルサイト等で町の取組みを情報発信していく。

施策の展開方向		
⑤ 環境にやさしいライフスタイルの推進		
想定される取組 その他の取組	◇小中学校と連携した環境教育の推進	担当課 住民生活課
取組状況	町内 3 小学校を対象に、清掃センターの社会見学を実施した。 また、南小学校の SDGs 学習の一環で、役場庁舎のリサイクルステーション及び小型家電等の見学及びごみ分別体験等を実施した。	
課題（問題点）	特になし。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 各小学校と連携を図り、環境教育に取り組めているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き各小学校と連携し、環境教育を継続していく。

第 6 次総合計画 の位置づけ	施策分類		施策名	
	2	住民の暮らしを支える施策	2-6	健康で安心して住み続けられる保健医療体制の充実
施策の展開方向	① 健康づくりの推進			
想定される取組 その他の取組	◇地域の運動習慣づくりや食生活改善活動への支援 ◇幼児期からの食育の推進 ◇各種健診・検診の受診促進 ◇生活習慣により引き起こされる健康問題の啓発 ◇「健康へぐり 21 計画」の推進			担当課 健康保険課
取組状況	健康へぐり 21 計画に基づき、ヘルスボランティアとの協働等により健康増進の取り組みを行った他、健康運動指導士によるフレイル予防から健康増進を目的とした運動教室を開催した。またライフサイクルを通じた食育の推進は、各課や関係団体と連携しており、年 1 回の会議で進捗や情報共有を行っている。今年度に第 2 期平群町自殺対策計画の策定や健康づくり推進協議会において、第 3 期健康へぐり 21 計画の策定を行った。			
課題（問題点）	ヘルスボランティアの高齢化や後継者不足が課題となっており、活動の縮小が危惧される。今後に向けて、全ての住民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な健康づくりの展開を検討する必要がある。			
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 第 3 期健康へぐり 21 計画や第 2 期平群町自殺対策計画に基づき、ゲートキーパー講習や啓発活動の実施のほか、関係各課により自殺対策に係る様々な事業を実施をしたため。		
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 第 3 期健康へぐり 21 計画に基づき、各種健診・検診の受診啓発と健診結果に基づいた医療への受診勧奨や重症化予防を行う。		

施策の展開方向	② 地域の医療・介護・保健体制の充実	
---------	--------------------	--

想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆フレイル予防や生活習慣病予防の推進</li> <li>◆地域包括ケアシステムの充実</li> <li>◇感染症予防の推進 ◇かかりつけ医の普及促進</li> </ul>	
取組状況	<p>保健と介護予防の一体的実施事業については、筋力アップや運動習慣づくりを目的とした教室や自主的に運動習慣を継続する教室を開催した。また、元気な身体づくり講座として健康診査の結果に基づく生活習慣の改善について、栄養、運動、オーラルフレイルの視点で講座を行った。感染症予防については、新型コロナワクチン接種、高齢者のインフルエンザ、肺炎球菌予防接種を実施した。</p> <p>また、医療、保健、介護関係者が連携した認知症予防の講演会の開催や休日夜間の診療体制を確立するための王寺周辺広域休日応急診療施設組合（三室休日診療所）に負担金を支払い三室休日診療所と病院群輪番制の運営を行った。</p>	
課題（問題点）	<p>コロナ禍を経て生活不活発病の傾向が見受けられ、様々な機会を通じてフレイル予防対策に取り組む必要がある。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由) 第3期健康へぐり21計画に基づいて、エンジョイトレーニングや元気なからだづくり講座等の事業を実施できたため。</p>
今後の方向性	継続	<p>(具体的な内容) 様々な機会を通じてフレイル、生活習慣病予防を目的とした教室を継続して行う。</p>

想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆フレイル予防や生活習慣病予防の推進</li> <li>◆地域包括ケアシステムの充実</li> </ul>	
取組状況	<p>医療・介護・保健の関係各課で連携を図り、情報共有等を行い、地域包括支援センターにおいて、介護予防事業等（講座・相談支援）（全11講座、のべ53回）を実施している。</p> <p>また月1回、医療・介護の専門職（多職種）、行政、地域包括支援センターで地域ケア会議を実施し、情報共有および支援の方向性等を協議している。</p>	

課題（問題点）	高齢化、核家族化が進む中、地域の繋がりが希薄になっており、事業への参加者も固定化されている。 地域の中での人材や集いの場、ボランティア団体等の地域資源や町行政・社会福祉協議会のマンパワー及びスキルが不足している。		
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>地域包括支援センターをはじめとして関係機関の連携が図れており、フレイル予防等の事業も感染対策に配慮しつつ実施できているため。</p>	
今後の方向性	継続	<p>(具体的な内容)</p> <p>介護予防事業に関して、参加者数の増加を図るための周知に努め、今後も講座・相談支援等の介護予防事業を継続して実施していく。</p>	
第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名
	2 住民の暮らしを支える施策	2-7	地域で支え合い、安心して暮らすための福祉施策の充実
施策の展開方向	① 高齢者の日常生活に対する地域の支援と福祉サービスの充実		
想定される取組 その他の取組	<p>◇地域支援体制の強化と拡充 ◇シルバー人材センターとの連携強化</p> <p>◇介護保険サービスの情報提供と利用促進</p> <p>◇第2層協議体発足の検討 ◇医療・介護関係者情報共有の強化</p> <p>◆高齢者の見守りサービスの充実 ◇いきいき百歳体操の推進</p>		<p>担当課</p> <p>福祉課</p>
取組状況	<p>生活支援体制整備事業協議体において、CSW（コミュニティーシャルワーカー）が地域とのパイプ役となり、地域資源を増やすべく地域住民による第2層協議体（地域・自治会単位の具体的な活動）の発足支援を行っている。</p> <p>また、高齢者の見守りサービスは、民生児童委員及び地域支え合い推進員と連携し、継続実施している。</p> <p>生活支援体制整備事業体についてまとめた冊子（つどいの場マップ）の令和7年度配布に向け、調査・検討を進めた。（第1層協議体町全体の方針、活動）</p>		
課題（問題点）	<p>地域の中での人材や通いの場、ボランティア団体等の地域資源や町行政・町社会福祉協議会のマンパワー及びスキルが不足している。</p> <p>また、高齢者の就労による地域貢献を担うシルバー人材センターの会員も就労年齢の引き上げにより、会員数の伸び悩みや会員の高齢化が進んでいる。</p>		
施策の評価	概ね順調	<p>(左記評価の理由)</p> <p>高齢者の見守りサービスは、地域に浸透してきており、地域支え合い推進員も定着してきている。また、コロナ禍で休止していたCSWによる地域団体の設立支援も再開している。</p>	
今後の方向性	継続	<p>(具体的な内容)</p> <p>現状の事業を継続しながら、CSWを通して新たな地域資源の発掘を行とともに引き続き広報や出前講座等で配食サービス等の福祉サービス事業の周知に努める。つどいの場マップ配布に向け調整を進める。</p>	
想定される取組 その他の取組	<p>◇ごみの個別回収（ふれあい収集）の実施</p>		<p>担当課</p> <p>住民生活課</p>
取組状況	<p>高齢又は障がい等により家庭から排出するごみを自らごみ集積所へ持ち出すことが困難な世帯に対し、町が戸別にごみを収集し、安否確認をしている。</p>		

課題（問題点）	高齢者人口の増加に伴い、ふれあい収集の申請件数が増加している。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) ふれあい収集を希望している人に対しては、おおむね実施できているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き、ふれあい収集を実施していく。

施策の展開方向	② 障がい者の福祉サービスの充実と自立支援	
想定される取組 その他の取組	◇各種障がい福祉サービスの啓発と利用促進 ◇地域生活支援拠点や児童発達支援センターの検討 ◇障がい者への差別・虐待防止の啓発 ◇「手話言語条例」の普及啓発	担当課 福祉課
取組状況	障がい者が孤立せずに、自分らしく生活を送ることができる地域社会の実現に向けて障がい者手帳の取得促進や介護訓練等給付事業の障がい福祉サービスの支給決定を行っている。また広報での手話コラムの掲載や職員等による指文字表の掲示、町内医療機関窓口への耳マークの掲示依頼等、手話言語条例の啓発を図っている。	
課題（問題点）	児童発達支援センターの設置が市町村に義務付けられたことにより、西和7町での設置を検討中であるが、用地の確保をはじめとして様々な課題があり難航している。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 地域生活支援拠点等施設整備（児童発達支援センターの設置）については、遅延しているが、他の障がい福祉サービスについては、適切な提供ができているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 障がい児の地域支援体制の充実を図るため、西和7町や関係機関と連携し児童発達支援センター設置に向けて協議を継続していく。

施策の展開方向		
③ 社会保障制度の利用促進		
想定される取組 その他の取組	◇社会保障制度の情報提供及び相談体制の強化	担当課 福祉課
取組状況	介護保険制度の安定的な運営および福祉サービスの周知をしており、地域包括支援センターにおける相談事業の継続実施も行っている。 また、生活保護に関する相談は県中和福祉事務所や中和・吉野生活自立サポートセンターとの連携を図りながら必要に応じて訪問・面談等を行っている。	
課題（問題点）	介護保険については、独居の方が増えてきており、介護保険サービスが必要な方が申請に来ない。 また、生活保護については、相談内容が多様化し、対応できる人材が不足している。	
施策の評価	概ね順調	（左記評価の理由） 福祉サービスについては、広報紙等で周知を図っており、各種相談については、解決に向けて関係機関と連携を図っている。
今後の方向性	継続	（具体的な内容） 今後も県や町社会福祉協議会等の関係機関と連携を図りながら継続して対応していく。
想定される取組 その他の取組	◇社会保障制度の情報提供及び相談体制の強化	担当課 健康保険課

取組状況	国民年金、各種医療保険制度等社会保障制度について、広報・ホームページで情報提供を行っている。 また、年金事務所、県や後期高齢者医療広域連合と連携し、地域住民が安心して相談できる体制づくりに取り組んでいる。	
課題（問題点）	複雑化する制度内容や仕組みについて、分かり易く説明・啓発する取り組みが必要である。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 各制度法令に基づいて適切に事務を行っているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き広報・ホームページ等で情報提供を行い、相談・啓発等に努める。

施策の展開方向	④ 地域で支え合う福祉の推進		
想定される取組 その他の取組	◇地域支え合い活動（子ども食堂等）への支援・周知 ◇小地域ネットワーク活動への支援 ◇重層的支援体制整備事業の検討	担当課  福祉課	
取組状況	社会福祉協議会に生活支援体制整備事業として委託しCSWによる、小地域ネットワーク設立の支援を行っている。 重層的支援体制整備事業については、地域の特性を活かした事業実施に向けて検討を進めている。		
課題（問題点）	地域の中での人材や通いの場、ボランティア団体等の地域資源や町行政・町社会福祉協議会のマンパワー及びスキルが不足している。（未発掘を含む）		
施策の評価	やや遅延	(左記評価の理由) スキル、地域の中での人材や通いの場、ボランティア団体等の地域資源の不足（未発掘を含む）により停滞している。	
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 小地域ネットワーク設立の支援継続および重層的支援体制整備事業実施に向けての協議・検討を行う。	

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名			
	2	住民の暮らしを支える施策	2-8	多様性を重んじるコミュニティの形成		
施策の展開方向	① 多様性や人権、平和の尊重					
想定される取組 その他の取組	◇継続的な人権啓発活動 ◇「人権・命の尊さへの住民集会」の開催 ◇「差別をなくす強調月間」の実施 ◇DV等の防止に向けた啓発活動の推進 ◇セクシャル・マイノリティに係る啓発活動の推進 ◇「平和のための戦争展」等、住民との協働による平和啓発活動の推進		担当課  政策推進課			
取組状況	「人権・命の尊さへの町民集会」の開催や人権擁護委員と連携協力し、様々な機会をとらえ住民への啓発活動に取り組んだ。 「平群町平和のための戦争展」を実行委員会形式で開催。8月には町内寺社等の協力を得て平和の鐘を鳴らす取り組みや戦争遺品の受け入れ等を行い、また展示するなど、平和啓発に取り組んだ。 人権を確かめ合う日一斉集会や奈良ヒューマンフェスティバルなどの啓発集会や学習会への参加等、啓発活動を推進した。 令和6年4月から平群町パートナーシップ宣誓制度を施行した。					
課題（問題点）	多様化する人権問題やニーズに対して、よりきめ細かな対応が求められているが、住民等が学ぶ、意識する、啓発する機会が少なくなっている。また、情報化の進展によりインターネットやSNS上の 人権侵害の事例も増加しており、時代や社会情勢の変化に対応した啓発活動が必要である。 また人権擁護委員等では高齢化等により担い手が不足しており、人材の確保や育成が必要である。					
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) スーパーでの街頭啓発や研修会等に参画し、幅広い人権に関わる活動に努めた。 平群町パートナーシップ宣誓制度において1件の取扱い事例があった。				
今後の方針	継続	(具体的な内容) 継続的に関係機関等と連携し、人権啓発活動に取り組んでいく。 多様化する人権問題に対し、実施体制を含め、住民等に対しより効果的で効率的な啓発活動を検討していく。				
想定される取組	◇小中学生向けの人権教育の実施			担当課		

その他の取組			教育委員会
取組状況	<p>開催している平群町人権セミナー（平群町人権教育推進協議会主催）の中で、小中学生向けのセミナーとして、8月10日には、支え合うことの大切さを描いた映画「水上のフライト」を上映し、人権の尊重や家族愛についての人権教育を実施した。</p>		
課題（問題点）	<p>人権セミナーの平日開催分については、親子連れや小中学生の参加が難しいため、開催日時や開催方法を検討する必要がある。</p>		
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 映画上映のセミナーについては、親子連れ、友達を誘っての参加があり、人権啓発に繋がったため。	
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 人権セミナーは令和5年度からの事業であり今後多くの住民に参加してもらえる人権教育となるよう、開催日も含め計画していく。	

施策の展開方向	②男女共同参画社会の実現		
想定される取組 その他の取組	◆男女共同参画推進のための広報・啓発・講演会開催 ◆「男女共同参画推進条例」の検討・制定 ◆審議会や委員会への女性委員登用の推進 ◆女性活躍に向けた意識改革や働きかけ、働く女性を支援する対策事業における県との連携		
取組状況	<p>第3次平群町男女共同参画プラン（令和6年度から令和15年度までの10年間）計画に基づく審議会（3回）を開催し、計画の進め方等について、審議した。</p> <p>男女共同参画週間に合わせ、総合文化センターでパネル展示を実施した。</p> <p>平群南小学校でLGBTQ学習を実施した。</p> <p>連合PTA等の関係機関との共同により男女共同参画等に関する講演会を開催し、啓発活動に取り組んだ。</p>		担当課 政策推進課
課題（問題点）	<p>策定したプラン等について、町行政機関だけでなく、町民や町内団体、事業者等の幅広い分野への周知及び理解の促進が必要である。</p>		
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 男女共同参画を推進するための体制を整えることができたため。 第3次男女共同参画プランがスタートし、勉強会や他の関係機関と共同で講演会を開催などの取り組みを行うことができた。	
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 引き続き、町民や事業者等に対する、周知啓発活動や学習会を実施していくとともに具体的な取り組みの実施について検討していく。	

第6次総合計画の位置づけ	施策分類		施策名	
	2	住民の暮らしを支える施策	2-9	住民の生きがいづくりとなる生涯学習・文化活動の推進
施策の展開方向	①生涯を通じて学び、活かすことができる環境の整備			
想定される取組 その他の取組	◇青少年の生涯学習や活躍の場と機会の確保 ◆多世代交流による学びの場の整備 ◇社会教育団体等への活動支援			担当課 教育委員会
取組状況	町子ども会やボイスカウト主催の行事に広く地域住民が参加できるよう広報掲載等の支援を行っている。 社会教育団体の円滑な学習活動を支援するために、町からの補助金を交付している。 生涯学習の場として「へぐり友遊教室」を年 <u>10</u> 回開催している。			
課題（問題点）	「多世代」が交流できる学びの場の提供をできる人材育成ができていない。			
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 年度計画通りにへぐり友遊教室等の事業を実施できたため。		
今後の方向性	継続	(具体的な内容) これまでの活動を今後も継続しつつ、生涯学習講座についても住民のニーズを捉え、実施していく。		
想定される取組	◇高齢者の生涯学習や活躍の場と機会の確保			担当課

その他の取組			福祉課
取組状況	長寿会活動の活性化を図ることにより、生きがいと健康づくり、また支え合う地域づくりの推進等、長寿会が実施する各種活動に補助金の交付、場の提供等の支援をしている。		
課題（問題点）	見守り活動やおしゃべり食堂等の主体的に様々な活動事業をされているため、特になし。		
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 長寿会の健康づくりや高齢者相互支援等様々な活動事業に補助金の交付を適切に実施することで、高齢者の生きがいづくりや活動の場の提供ができているため。	
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 今後も長寿会への補助等を通じて、継続して実施する高齢者の健康づくりや活躍の場づくりを支援していく。	

施策の展開方向	②文化芸術活動とスポーツの振興		
想定される取組 その他の取組	◇文化教室やスポーツ活動の推進 ◇スポーツ・文化芸術活動の指導者等の人材育成・拡充 ◇学校部活動の地域移行		担当課 教育委員会
取組状況	令和6年度からは「平群町スポーツフェスティバル等の新たなスポーツイベントを開催した。 人材育成についてはスポーツ推進委員会の活動を通じて指導者の育成にあたっている。また、市町村対抗子ども駅伝についても平群町チームの指導にあたっている。 他にも公民館教室の開催を通じて、文化教室の実施や文化芸術活動に関する指導者等の育成に取り組んだ。 学校部活動の地域移行に関しては、令和5年度に協議会を立ち上げ、令和6年度に引き続いて教室（硬式テニス、ヒップホップダンス）の開催を行った。また、バスケットボールや卓球の地域移行の実証も行った。		
課題（問題点）	高齢等の理由により、町スポーツイベント行事に参加する住民が少なくなっている。		
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 新たに平群町スポーツフェスティバルやトレッキングイベントを開催することができ、多くの住民が気軽に参加する機会が増えたほか、公民館教室についても17講座の開講があったため。	
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 新たな大型スポーツイベントとして「平群町スポーツフェスティバル」を継続開催する。 公民館教室等の文化活動については今後も継続していく。 部活動の地域移行についても継続して取り組む。	

施策の展開方向 ③総合文化センターのにぎわい創出と図書館の機能充実		
想定される取組 その他の取組	◇「総合文化センター」を中心としたにぎわい創出 ◇魅力ある公民館教室の実施 ◇図書館の蔵書の充実 ◇ボランティアの人材育成	担当課 教育委員会
取組状況	総合文化センターの活用については、くまがしホールやどんぐり広場等で、民間団体によるマルシェ等のイベント行事の開催やボランティア団体と連携したバラの手入れ、冬季のイルミネーション設置等にぎわいづくりに努めた。 地域に根差した学習を提供する場として、公民館教室を17講座開講した。 図書館グループ学習室の無料開放を4月より開始した。 「にぎわいのあるまちづくり」の機会を住民に提供していくため、イベントの開催に限り、祝日開館を実施した。	
課題（問題点）	総合文化センターの活用については、より一層の賑わい創出の為、祝日開館に向け検討する必要がある。図書館については、子どもから高齢者まで幅広い層の学習を支える為に、図書館の蔵書冊数の増加が必要である。また、「平群町おはなしの会」のボランティアの人材育成についても充実させていく必要がある。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 総合文化センターについては、自習に使用できるスペースを開放するなど稼働率向上に向けて取り組んでおり、また、マルシェ等民間団体の利用により、稼働率は約7%増加している。図書館については、土曜日を19時閉館に戻したことが少しづつ周知され、入館者数が約1,700人増加した。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 更なる賑わい創出や各部屋の稼働率向上に向け、祝日開館に取り組む。 また、図書館の蔵書数の増加に努めるとともに、「平群町おはなしの会」のボランティア養成講座を開催し、人材育成に努める。 図書館開館20周年記念事業を令和8年1月に開催する。

施策の展開方向		
④文化財の調査・記録・保護・伝承意識の確立		
想定される取組 その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇文化財の調査・研究の推進</li> <li>◇文化財の次世代への継承の推進</li> <li>◇各種団体等と連携した保全活動の強化</li> </ul>	<p>担当課</p> <p>教育委員会</p>
取組状況	<p>町内所在史料調査を実施した。（対象：吉新・浅野家所蔵史料の一部）            公民館教室「文化財調査センター養成講座」において史料調査補助要員を育成している。            平群史蹟を守る会等との協同による主要古墳の除草等、維持管理活動を実施している。</p>	
課題（問題点）	<p>史料調査体制の整備（継続的な調査参加が可能な史料調査補助員（専門課程を履修した大学生・大学院生等）の確保、調査センターの育成等）が必要である。            平群史蹟を守る会等、連携団体の構成員の高齢化が進んでいる。            烏土塚古墳は石室漏水防止のためシートで養生しているが、今後整備事業の検討にあたって保存活用計画の策定が必要である。また、地元自治会からは落葉の処理が負担であるとして墳丘の広範な樹木伐採を求める要望があり、対応が課題となっている。</p>	
施策の評価	概ね順調	<p>（左記評価の理由）            史料調査事業は順次調査作成を進めており、主要古墳維持管理事業も計画通り進んでいるため。</p>
今後の方向性	継続	<p>（具体的な内容）            町内所在史料調査の実施、公民館教室「文化財調査センター養成講座」を通じた人材育成や主要古墳の維持管理を行う。</p>

施策の展開方向		
⑤歴史遺産や文化財の魅力の共有と発信		
想定される取組 その他の取組	◇調査成果等の発表会の開催 ◇広報紙等を利用した魅力の発信 ◇観光部門と連携した情報発信の強化	担当課 教育委員会
取組状況	調査成果の還元としては①11月に文化センター展示スペースを利用し企画展示「平群を掘る－椿井遺跡の発掘調査」を実施した。②2月9日に文化センターくまがしホールにて「へぐりの学校150周年記念歴史講演会＆トークセッション」（古文書調査関連）を開催した。 魅力の発信としては町広報で直近の発掘調査の概要掲載、町HPで椿井城跡を題材とした平群小6年生総合学習の取り組み紹介等を実施した。 ・観光部門との連携としては8月に「大和お城まつり2024」に観光産業課と共同で出展し、パネル展示や歴史講座を実施した。	
課題（問題点）	企画展示の回数・内容の充実。 町HP等の様々なツールを活用した情報発信力の強化。	
施策の評価	概ね順調	(左記評価の理由) 企画展示やイベント等を通じて調査成果を還元する機会を得られ、部門間連携を含む魅力の発信についても昨年並みの水準を維持できているため。
今後の方向性	継続	(具体的な内容) 文化財企画展示等による調査成果の還元を図る。 町HPにおける文化財コラムのデータ公開等、魅力の発信につながる取り組みを継続して行う。

